

令和7年度 WE DO KYOTO!
ユースサポーターの活動について



京都府総合政策環境部脱炭素社会推進課

概要

WE DO KYOTO! ユースサポーターとは？

- 脱炭素社会の実現に向けた府民の行動促進等を図るため、環境問題について学び、発信したり、府主催の環境啓発イベントの運営を補助したりするボランティアとして、府内に在住・在学・勤務する18歳～25歳の若者
- 平成29年度開始、令和7年度で9年目
- 令和7年度は32名（10大学・2大学院）が参加

令和7年度の主な活動内容

・委嘱式・カードゲーム「2050カーボンニュートラル」（6月）	・AIJweekに基づく日豪印研究者との意見交換会（11月）
・「KYOTO地球環境の殿堂」未来会議・国際会議への参加（6月、8月）	・京都エコロジー・フィールドワーク（11月）
・「KYOTO地球環境の殿堂」国際会議への参加（9月）	・斗々屋京都本店 企業訪問（12月）
・きょうと☆いきものフェス2025の運営補助（9月）	・京都環境フェスティバルへの出展（2月）
・オオバナミズキンバイ駆除活動への参加（10月）	・京と地球の共生府民会議第30回環境連続セミナーの運営補助（2月）
・京と地球の共生府民会議第29回環境連続セミナー聴講（11月）	・ラジオでの情報発信（11月、2月）

委嘱式・カードゲーム

委嘱式(6/2)

■ 令和7年度は10大学、2大学院の学生様
32名の方を委嘱しました。

京都工芸繊維大学	滋賀県立大学
京都産業大学	同志社大学
京都精華大学	同志社大学大学院
京都大学	福知山公立大学
京都大学大学院	立命館大学
京都府立大学	龍谷大学



カードゲーム「2050カーボンニュートラル」(同日)

講師: 京都府地球温暖化防止活動推進
センター

木原 浩貴 副センター長 様
川手 光春 事務局長 様

■ チームに分かれて、カーボンニュートラルを
目指し、楽しく学習しました。



「KYOTO地球環境の殿堂」 未来会議

未来会議(6~8月)

国内外の高校生・大学生とともに、自然環境と京都文化との関係について府内各地をフィールドに探究活動を実施しました。

■ 古来文学探究プロジェクト

日本独自の古来文学に触れ、当時の人間と文学に登場する動植物がどのような関係性を築いていたのか、その現代における意義について探究。

■ 伝統産業探究プロジェクト

国内で古くから使用されてきた天然塗料「漆」について、伝統技術を守りながらも新たな挑戦について学びつつ、産業の現状や自然と人間の関係性について探究。

■ 森里海探究プロジェクト

人と自然が共生する暮らしを支えてきた森里海について古来から受け継がれてきた資源循環の仕組みや生態系保全の事例、その現状について探究。



「KYOTO地球環境の殿堂」国際会議

国際会議(9/20)

- 未来会議を通じて得た学び、気づきを踏まえて、人と地球のあるべき姿について未来に向けたメッセージを発表しました。
- 歴代の殿堂入り者とのパネルディスカッションには、ユースサポーターより2名が参加しました。



未来への宣言

現代を生きる私たちは、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇といった地球環境課題に加え、古来文学に描かれてきた自然の偉さを伝え合う感性が日々の忙しさの中で失われ、スマートフォンやSNSの普及により自然の声を傾ける余裕がなくなりました。経済性、効率性のみを求めた大量生産・大量消費の結果、伝統産業の基盤になる自然に対する畏敬の念が薄れ、ものづくりがなく人と自然の関係が希薄化しました。自然とふれあう機会が減少することで、本来もつ森里海のつながりが見えにくくなり、生活と自然が分離してしまいました。

こうした課題を前に、私たちは、誇るべき京都の先人たちの歩みを受け継ぎ、未来に向けて次のことに取り組みます。

■ 日常の中で自然を楽しみ、いのちを慈しむ心を大切に、その価値や魅力を多くの人々と共有していきたい。

■ 時代と共に新しいものを取り入れ進化してきた伝統を深く理解し、新たな変化を起こす挑戦をしていきたい。

■ 地球環境課題を自分事として捉え、生まれた時よりも美しい環境を次の世代に引き継いでいきたい。

その他活動

きょうと☆いきものフェス!2025への参加(9/27)

- 京都府等が共催するイベントにて、自然素材を活かしたワークショップや自然観察会等の運営補助を行いました。



令和7年度秋 鴨川オオバナミズキンバイ駆除活動への参加(10/11)

- 京都府等が主催する駆除活動に、その他学生団体等と一緒に参加しました。
- 約1.100kgの駆除を行いました。



その他活動

京と地球の共生府民会議第29回環境連続セミナーの聴講(6/1)

- 京と地球の共生府民会議(事務局:京都府)が主催するセミナーを聴講しました。
- 京都府の地形、地質、地域生態系について、それぞれ伺い、現在の京文化と自然環境の関わり方について学びました。



研究者との意見交換会(11/26)

- 京都大学が中心となって開催された「Japan, Australia & India Trilateral Collaboration Week」の活動の一環として、日本の学生と、印・豪の学生の気候変動に対する考え方の違い等について研究者の先生と意見交換・交流しました。

研究者4名:

Upasona Ghosh (インド環境衛生センター准教授)

Claire Leppold (メルボルン大学上級研究員)

Mai Tran (グリフィス大学博士)

田代藍 (京都大学大学院人間・環境学研究科特定准教授)



その他活動

京都エコロジー・フィールドワーク への参加(11/29)

■京都市等が主催するイベントに参加し、施設見学を通して事業者のサーキュラーエコノミー(資源循環)の取組や考えを学びました。

■取材先:

○光アスコン(株)

建設工事に伴うがれき類から再生アスファルトや再生路盤材を製造されています。通常のものと同色のない品質です。

○日本ウエスト(株)

廃プラスチックや紙から固形燃料(RPF)を製造されています。輸送性やエネルギー効率向上など多彩なメリットがあります。



斗々屋京都本店への企業訪問について(12月)

■1日こども店長として、陳列から販売までの循環の流れを体験しました。

■(株)斗々屋は日本で初めてゼロウェイスト(ごみ限りなくゼロ)なスーパーをオープンされました。

■店内に並ぶ食品や日用品すべてに個包装がなく、量り売りで買い物ができ、環境にやさしい買い物スタイルが実現できます。



情報発信

京都環境フェスティバル(2/11)

- これまでの活動をポスター等にまとめてブース出展を行いました。
- 同会場内で実施された第30回環境連続セミナーの運営補助を行いました。



ラジオ収録(11/19、2/17)

- 1年間の活動を前半後半の2つに分け、活動から得た学びなどを発信しました。
MC: 京都リビングFM 葛山様
- 第1回ラジオ
「KYOTO地球環境の殿堂」について
- 第2回ラジオ
企業訪問等について

